

コース56 日の隈公園から岩田地区、川寄地区の古道

コース作成 松永

起点 日の隈公園駐車場

距離 6キロ

見所 日の隈山、岩田地区、川寄地区の歴史と地元愛を感じる平坦なコース

注意点 コース途中のトイレは県道沿いの商業施設をご利用下さい

コース概略 ①日の隈公園駐車場 

②青龍寺跡(佐賀城鬼門の祈禱寺・天台宗)

③岩田の天満宮・カンカン石(室町時代末期以前の創建)

④岩田丸山古墳

⑤台場屋敷跡

⑥稲荷大明神(集落内にたたずむ)

⑦横落水路

⑧田上神社(手力雄命を祭神・神埼五社祭社の一つ)

⑨古代官道(奈良時代に整備された西海道、太宰府から肥前国府に)

⑩たい焼き店(人気のたい焼き店、ウオーキングのご褒美をご自分に)

⑪ゴール

*① 日の隈山の由来は、古代の烽火台に由来すると考えられ、肥前風土記の神埼郡の記載では、烽火一所とあり、火(日)に関係する日ノ隈になったと推定される。(神崎市平成30年度神埼まちあるき資料より)
烽火台が設置された時代背景、朝鮮半島白村江で敗退した倭国は、海を渡って侵攻されることを警戒。北部九州各地に防人を配置し、対馬等から奈良県までの烽と山城を各地につくる。小城の両子山(ふたごやま)と鳥栖市の朝日山の間。太宰府まで伝わったと考えられる。(上記資料)

*③④⑤ 令和3年4月に、地元の有志により『岩田の歴史』が、発行。地域の皆様の郷土愛にあふれた編集です。この本によれば、天満宮の創建時期は不明だが、櫛田宮古文書で室町時代末期には存在していた。
岩田丸山古墳は、東西30メートルの前方後円墳。
岩田台場跡、元禄時代ごろに作られた佐賀藩の砲術演習所跡。約150年利用の跡、小城藩領に移動。日本を変えた佐賀藩の砲術、ルーツは岩田？

*⑦ 城原川から、取水した後、横落水路をとおり、川久保の地を潤す。取水口の井樋は、三千石井樋と称され、神代家所領の土地を豊かにした。如何に、佐賀藩が神代家を大切にしていたかがえる。

一足伸ばして:日の隈山展望台、頂上から防人の気分で、西、東を眺める。
また、東側麓から『西郷富士』と呼ばれる立ち姿を楽しむ。

西に隣接した地区には、帯隈山神籠石



①



約400メートル西へ



②入口



②



③入口



③



カンカン石



岩田信号を渡りすぐ真ん中の細い路へ



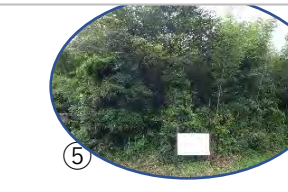
左へ



④



趣のある路を



⑤



古代官道説明



ひっそりとお地藏様



⑥への入口



⑥



唐香原から平山へ



鼻歌が似合うゆったり路



左手に日之隈山



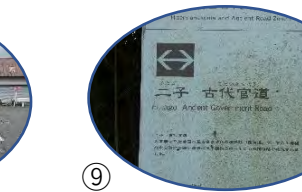
三叉路右へ



⑧



⑨



⑨



三叉路右へ